席海明による内モンゴル人民党の度重なる虚偽の代表主張に関する内モンゴル人民党の声明

内モンゴル人民党

2018 年 5 月 29 日

席海明（シ・ハイミン、別名：テムチルト・ショブチョード）は、1997 年に北米で内モンゴル人民党（IMPP）が公開されて以来、党の総裁（「主席」とも呼ばれる）を務めてきました。2015 年 3 月 1 日、内モンゴル人民党（IMPP）の執行委員会は緊急会議を開催し、その場で強い多数決により、席海明を党の総裁職から解任する決議が採択されました。この決議は、席氏が IMPP の指導原則、最終目標および組織規約に繰り返し違反し、先住モンゴル人の信頼と基本的権利を裏切る言動を通じて、IMPP の活動と南モンゴル解放運動全体に深刻な悪影響を与えたという事実に基づいています。

しかし、席海明は解任後も、IMPP の総裁を自称し、組織を虚偽に代表し続けており、その結果、私たちの組織のイメージを損ない、南モンゴル解放運動を傷つけ続けています。したがって、ここに、席海明の過去の IMPP での役割、解任理由、および関連事項について明確にする必要があると考え、以下のように表明します。

1. IMPP 総裁在任中、席氏は度重なる機会において、組織の手続きを無視・軽視し、IMPP の指導原則および最終目標と深刻に対立する、いわゆる「二元所有論」を党に押し付けました。この「二元所有論」は、南モンゴル地域における正当な所有者としての先住モンゴル人の歴史的地位を否定し、中国植民地主義者に平等な所有権を認めるもので、モンゴル民族の根本的利益を著しく侵害するものでした。
2. 党内での正式な議論や承認を一切経ることなく、席氏は南モンゴルの「独立の放棄」という、いわゆる「新政策」を公表しました。しかし、IMPP の綱領は当時も今も、党の最終目標が中国の植民地支配を終わらせ、南モンゴルの独立を達成することだと明確に規定しています。
3. 党内外からの批判に直面した際、席氏はそれらを個人攻撃、あるいは自らの「権力」を奪おうとする陰謀とみなし、結果として防御的な態度を取り、党のメンバーや支持者を根拠もなく中国のスパイや裏切り者だと非難するなど、個人攻撃を頻繁に行いました。皮肉にも、しばしば酒の影響下で、党内の「権力」を失うくらいなら「内モンゴル」に戻り中国当局と協力すると発言することもありました。批判をかわすため、無責任かつ不誠実な態度で、IMPP のメンバーでもなければ総裁でもないと何度も主張しましたが、実際にはそのような正式な手続きは存在せず、前述の 2015 年 3 月 1 日の緊急会議で初めて解任が決定されたのです。

4. 席海明の長年にわたるアルコール依存も、判断力の深刻な欠如、自制心の喪失、そして何より個人としての誠実さの欠如を助長しました。重要な国際的イベントに泥酔状態で参加し、他者を困惑させ、秩序を乱し、党の評判を傷つけ、我々の大義に悪影響を与えた事例も少なくありません。さらに容認できないのは、彼が酔った後にしばしば不適切な時間帯に電話をかけ、中国の監視下にある人々にまで敏感な組織情報を漏らし、他者を非難するなどの行為を続けてきたことです。彼は自らの発言が中国当局に監視されていることをよく知っていながら、こうした行為を続けてきました。アルコールの有無にかかわらず、彼の分裂的・破壊的な行動は、周囲の人々のみならず、党のイメージや南モンゴルの大義そのものを深刻に損ねてきたのです。

私たちは、南モンゴルの闘いに理解を示し、共に活動し、支援してくださる方々を歓迎し、感謝いたします。このため、席海明と南モンゴルに関連する活動を行うこと自体に異論はありません。ただし、その場合は、彼が IMPP 以外の立場や所属組織の個人として活動していることを確認したうえで行動し、IMPP の名を語る彼の破壊的行為に加担しないよう、細心の注意を払うようお願いする次第です。ご理解とご協力に心より感謝いたします。

詳細については、以下の付録資料をご参照ください。

I. 2015 年 3 月 1 日付の IMPP による席海明解任決議（英語）
II. 同決議の中国語版
III. 同決議の伝統モンゴル語版
IV. 世界中の南モンゴル人有志による席海明（テムチルト・ショブチョード）への公開書簡（英語）
V. 同公開書簡の中国語版

ドルギオン・ハトギン

内モンゴル人民党総裁